

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0272600396
法人名	社会福祉法人三恵会
事業所名	くるもりの郷
所在地 (電話番号)	〒039-4401 青森県むつ市大畑町29番地4 (電話) 0175-34-5525

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年12月10日	評価確定日	平成22年2月25日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	85.3 歳	最低	77 歳
		最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前田内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設当初に職員自ら作り上げた理念を大切に、入居者が心地よく暮らせるようケアしている。ケアの質の向上に対する職員の意識が高く、自己評価を全職員が記入し職員一人ひとりの意見や思いを引き出し、改善点の解決に向けチームで取り組んでいる。地域住民の人口減少や交通が不便な点などの問題があるなか、併設施設の車両を借りて隣町まで出かけたり、地域行事に参加するなど積極的に地域との交流に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	居心地良く過ごせる居室の配慮について、担当の職員が中心となり本人の意向を尊重し取り組んでいる。各居室には本人の写真が飾っており、自分だけの空間を楽しめるよう工夫している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を理解した上で職員一人ひとりが自己評価を記入している。管理者は、率直な意見を引き出し、真摯に受け止めて具体的な改善に向けサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3~4ヶ月に1回の頻度で、事業所の取り組みや防災について運営推進会議を開催し参加者と情報交換を行っている。地域と密着した関係性を築くために、事業所側としては2ヵ月に1回の開催を望んでいるが、メンバーの都合等で開催時期がずれたり、出席率が低い時もある。メンバーの再編成等も含め定期的な開催に向け検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	面会時や電話での対応時に家族の意向を汲み取れるよう、職員が声掛けしている。第三者委員会を設けサービスの向上に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年間の行事を通して地域との交流を深めている。敬老会に地域の婦人会の方々を招いて歌や踊りを披露してもらっている。毎年招いている為、恒例の行事として浸透し入居者とも顔なじみの関係ができています。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所を開設した際に、職員自ら考えた理念を現在も掲げている。地域の中でケアの質の向上を目指し支援していく事を念頭に置いた理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有できるよう玄関前に掲示し、職員会議の際には理念について話し合う機会を設けている。また、年度ごとに理念に則した目標を立てて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	年間の行事を通して地域との交流を深めている。敬老会に地域の婦人会の方々を招いて歌や踊りを披露してもらっている。毎年招いている為、恒例の行事として浸透し、入居者とも顔なじみの関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の意義を理解した上で職員一人ひとりが自己評価を記入している。管理者は、率直な意見を引き出し、真摯に受け止めて具体的な改善に向けて取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3～4ヶ月に1回の頻度で、運営推進会議を開催している。地域との密着した関係性を築くために、事業所側としては2ヶ月に1回の開催を望んでいるが、メンバーの都合等で開催時期がずれたり、参加者が少なかったりしている。メンバーの再編成等も含め定期的な開催に向け検討中である。</p>		<p>メンバーの再編成等も含め定期的な開催に向け検討中であるということから、早期実現に向けた取り組みに期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>担当の市の職員とは、積極的に連絡を取り合い情報交換を行っている。必要時には問い合わせや相談をし、サービスの質の向上に努めている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>社会福祉協議会の職員を招き講義をしてもらい、職員が権利擁護について学ぶ機会を設けている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>市で発行している虐待防止マニュアルを活用し、いつでも回覧できるように設置している。また、管理者が関連法等について学び、職員へ伝える機会を設けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者と家族が不安にならないように、入居する際に重要事項説明書に基づいて十分な説明をしている。終末ケアに対する事業所の方針を入居時に説明し、同意した上で利用していただいている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>便りを4ヶ月に1回発行し家族へ送付している。金銭管理と日々の様子の報告は家族の面会時に行っているが、遠方に住んでいて頻繁に面会に来られない家族には、明細書を送付している。必要時にはその都度電話で連絡している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話での応対時に家族の意向を汲み取れるように、職員が声掛けしている。第三者委員会を設けサービスの向上に努めている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少ないが、退職者があった場合はお別れ会を行い、入居者にきちんと説明している。新しく職員を採用する際は、歓迎会を開き入居者が新しい職員を受け入れやすいよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画をたて、人材育成の為に法人全体で取り組んでいる。併設の施設との協力体制も整っており、職員を段階に応じて育てる仕組みができている。また、新人教育期間が1ヶ月間設けられ、新人の職員が不安なく勤務できるよう配慮されている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の研修会や、その他同業者が出席している研修や会議に参加した際は、参加者同士で必要な情報を交換し、サービスの質の向上へ繋げている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時に家族から生活歴や好きなものを詳しく聞き取りして得た情報をサービスに生かしている。また、事業所で暮らしていく中で見えてきた馴染みのものを探し、入居時には聞き出せなかった情報を家族から再度得る事で、本人が安心して暮らせるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理する際は、昔の話を聞きながら行ったり、味付けを教えてもらったりして、入居者と職員が共に支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は担当の入居者の出来る事・出来ない事のアセスメントを実施し、一人ひとりの思いの把握に努めている。カンファレンスの場で、職員全員で意見を出し合い本人の意向を確認している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当職員と計画作成担当者が中心となり、カンファレンスで話し合われた家族の意向と本人の意向を取り入れたプランを作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1年に1度、プランの見直しを行っている。状態が変化した時は、その都度見直しをし、必要時は新たなプランを作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診や外出はその時の要望に応じて支援している。共用型デイサービスを実施しており、急な送迎時間の変更にも対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>近隣の診療所の医師がかかりつけ医として協力しており、常に適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事業所の方針で、終末ケアには取り組んでいない。入居時に本人と家族に事業所の方針を説明し、理解してもらっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄時の言葉掛けは、周りに気づかれないようにさりげなく行う等、普段から職員がプライバシーの確保に心掛けて対応している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>過去の生活パターンを生活歴や家族の話から探り、心地よく過ごせるよう、現在の生活のペースにも取り入れている。また、早起きをする入居者が多いが、入居者の生活パターンに職員が合わせて対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>嗜好調査を行い、嫌いな食べ物がある場合は代替食を出して対応している。盛り付けや味付け等入居者の出来ることを一緒に行うことで食事をより一層楽しめるよう工夫している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴実施日は週4回である。入りたい時間は希望があれば変更し対応している。入浴できなかった場合は次の日に清拭しているが、入浴することは出来ない。</p>		<p>利用者の希望に応えられる体制を整える事と、夜間浴を実施する事を検討中であるため、今後の取り組みに期待したい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりが、茶碗拭きや洗濯物たたみ等、自分の役割をもって生活している。季節によって畑作りやケーキ作りを行い、楽しみのある生活が出来るよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>行事や買い物以外でも、外出の希望があれば園外を散歩し対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画の中に身体拘束についての内容を取り入れている。ベットから転落する危険性がある入居者に対してはセンサーマットを使用し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけずに自由に入出入りできる。玄関を出入りしたらチャイムが鳴るようにし、鍵をかけないように取り組んでいる。チャイムの音は耳障りにならないようなメロディになっている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の職員が運営推進会議のメンバーになっており、消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施している。また、近隣住民の協力体制を整えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を記録し、摂取状態を把握している。水分摂取量が少ない方には摂取不足の原因を探り、とらみをつけて対応する等工夫して支援している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、感染症に対する研修を行っている。年間を通して事業所内に嘔吐物処理用のキットを常備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>法人内で装飾担当者を決め、事業所内で季節を感じられるよう工夫している。リビングや廊下、共用トイレは心地よく過ごせるよう清潔に保たれている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室担当者が中心となり、心地よく過ごせる居室づくりに取り組んでいる。本人の意向を尊重し位牌を持ち込んでいる方もいる。</p>		

 は、重点項目。